

伊藤 昔は家族や地域のつながりの中で子どもたちは暮らし、育ちました。子どもは家族と共通の体験を通じて、自分なりの知恵をつけたんですね。

中尾 昔は自宅近くで働いている人が多くて、子どもは親が働く姿を見ていました。しかし今は、サラリーマン化していて、自分の親の働く姿を目にしている子どもはあまりいませんよね。

伊藤 それに加えて、働く時間が増えて、親が親でいられる時間が少なくなっています。つまり、子どもが子どもでいられる時間も少なくなっているのではないのでしょうか。



中尾 晴代さん
蒲北小・蒲中出身 豊川市在住 高校講師

内田 確かに、文集の中にも母親のことがよく書かれていますね、とても身近な存在でし

た。昔は母親と一緒にいる時間が長く、子どもは母親に親しみを持っていました。母子の関係が強かったんですね。

牧 生活の中でいつも親が一緒にいて、父親からは厳しさを、母親からは優しさを学んだものなのです。

中尾 厳しくても優しさがあって、いつでもどこかに親を尊敬する気持ちを持っていました。

内田 私が子どものころは、ゲタや服などは、お正月以外に買ってもらったことはありませんでした。だから買ってくれたときはうれしくて親に感謝したものです。こんな日常から、モノを大切に、我慢すること、を覚えたのだと思います。

学校の先生

内田 そういえば、文集には学校の先生のことたくさん書いてありますね。

伊藤 あのころの先生はみんな神様みたいな存在でした。親も子どもも信頼していましたね。

内田 そうそう、先生に怒られたことは親には言えませんでした。「おまえは先生に怒られる

ようなことをしたのか」ってまた親に怒られてしまいますから。



牧 信男さん
蒲東小・蒲中出身 栄町在住 食品卸売業経営

中尾 私はよく先生の家に遊びに行きました。そこで食べさせてくれた食事がとてもおいしかった覚えがあります。でも今はこのようなことはなかなか難しいですね。先生の家まで行く間になんかあんな時代ですから。

内田 今は何をやるにでも責任がついて回るので、先生も身動きがとれないのではないのか。先生も大変ですね。

ふるさとに望むこと

内田 私は19歳で蒲郡を離れてしまいましたが、私を育ててくれたのは蒲郡という思いは強

いです。個人的には、いつまでも故郷は故郷であって欲しい、蒲郡は変わらなくて欲しいとは思いますが、今、蒲郡に住んでいる人のことを考えると発展していかなければいけない。だからせめて、蒲郡の良いところは壊さずに残しておいて欲しいと思います。

あと、これはぜひと思うことは、競艇依存のまちから抜け出すことと、きれいな海を取り戻して欲しいということですね。

牧 蒲郡のシンボルといえばやはり竹島だと思います。このように蒲郡らしくて美しい風景は、いつまでも大切にしていきたいですね。



座談会を終えて、市長と語り合う皆さん